

若者のアイデア生かし

文星の連携センター5年

県内の企業や自治体との協業を目指す学生たちを支援する文星芸術大・宇都宮文星短大(宇都宮市)の「芸術文化地域連携センター」が、本格始動から5年を迎えた。芸術を切り口にした地域貢献の取り組みは徐々に知られるようになり、産官学でこれまでに展開した事業は150以上。今後は企画段階から学生が参加するなど、若者ならではのアイデアを積極的に取り入れていくという。【吉原健】

純米酒のパッケージデザイン、酒のオリジナルのデザイン、それが自信にもナル名刺のデザイン、つながっている」と話。池田大病院でのアートセラピー……。2010月初旬、文星芸術大08年9月の発足から、美術学部デザイン専攻連携センターには年平均で30件の依頼があり、今年度も9月末までに31件と好調だ。センター長を兼ねる長崎(40)。家庭用品を策センター長(69)は「学生時から社会との前からオリジナル商品

産官学事業、150以上に

作りに取り組み、今年1月には新製品開発の一環として取り組むチームが本格始動した。商品開発のアイデアを形にするノウハウがなく、提案している時に目に留まったのが連携センターだった。学生との話し合いを進めながら、社内でのアイデアコンテストも実施している。「まずは社内でのアイデアを集め、商品化に結びつけたい。学生の研究にも生かしてもらえれば」と、池田社長は社員と学生の化学反応に期待を寄せる。

研究室で同席したのはい、デザイン専攻の高野麻衣さん(4年)とマンガ専攻の佐藤静香さん(4年)。

「学生の研究はまだ粗削りだが、学内のデザイン事務所は着実に成長を遂げているといえそう。指導する中野准教授は「いつか地元企業などと手を組めたら」という思いがあっ

た。ようやくそれが実現できている。学生の未熟な部分はカバーしていく必要があるが、仕事の幅は上がっている」と感慨深く語る。

「学生は多岐にわたる機会が多くなることも想定される。責任も大きくなるが、長年センターは5年を振り返りながら「産学では得られない経験。キャリア教育という面でも有益だ」と話している。

SCは17時フクダ電機、ジェフユエタ、引き分けは16時12分、ち点60で、のま。をつないで、位による進出の、千葉に木は後半、を挙げた、はかなわ、終節の24、京都サン、する。

人の写真を背に、思...
健一さん=栃木市万...
歳の街美術館で



トヨさん回顧展
長男のトークも
とちぎ歳の街美術館
今年1月に101歳
で亡くなった栃木市
出身の詩人、柴田トヨ

街美術館で回顧展が
開かれている。12月8
日まで。17日は柴田さ
んの長男健一さん(88)
によるギャラリートー
クもあり、軽妙な話
り口にも多くの来場者が



池田社長(右手前)と連携を交わす学生たち—宇都宮市上戸寮4の文星芸術大

◆宇都
し通体
1時50分
市田下町
ん(分)方
いるのを
気づき、
造平屋
方が全
中から
た。宇都
ると、佐
暮らし。
絡がつい
火の